

2010年の大雨

10月に奄美地方で大雨による災害が発生

1. 概要

梅雨入りは、沖縄地方と奄美地方では早く、九州南部から東北地方にかけては遅かった。梅雨明けは、沖縄地方と中国地方から東北地方にかけては早く、奄美地方と九州南部では遅かった。梅雨の時期の降水量は、九州南部、四国地方、近畿地方、東北地方で多く、他は平年並だった。

7月10日から16日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、西日本から東日本にかけて大雨となった。また、10月18日から21日にかけて、前線が奄美地方に停滞し、南シナ海にあった台風第13号の東側で非常に湿った空気が前線付近に流れ込んだため、大気の状態が不安定となり、奄美地方では、所により期間降水量が800 mm を超える記録的な大雨となった。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。降水量を記載する際の観測地点名は、都道府県名、市町村名及び地点名（地点名が市町村名と同じ場合は省略）とした。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、総務省消防庁等発表の資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

(1) 2月5日～6日：東日本から北日本（暴風，大雪，高波）＜冬型＞

日本付近は冬型の気圧配置となった。このため、日本から北日本の一部で暴風となったほか、北陸地方の沿岸で大しけとなり、また、東日本から北日本の日本海側を中心に大雪となった。

大雪や暴風のため、新潟県では地吹雪により広域農道などで数十台の車が通行できなくなったほか、群馬県や石川県などで農業被害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(2) 3月9日～10日：西日本から北日本（大雨，大雪，暴風）＜低気圧＞

低気圧が発達しながら九州の南海上から本州南岸を通して千島近海に進み、別の低気圧が日本海中部から千島近海に進んだ。このため西日本から北日本の一部で暴風となったほか、中国地方や東北地方の太平洋側の一部で大雪となった。

このため、西日本から東日本の広い範囲で農業被害、電力障害や交通障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(3) 4月27日～29日：西日本から北日本（大雨）＜低気圧＞

低気圧が日本付近を通過したため、西日本から北日本の広い範囲で大雨となったほか、四国地方と東北南部の一部で暴風となった。

大雨のため、徳島県や神奈川県を中心に住家の浸水が約500棟に上ったほか、西日本から北日本の広い範囲で、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(4) 5月22日～24日：全国（大雨，高波）＜低気圧＞

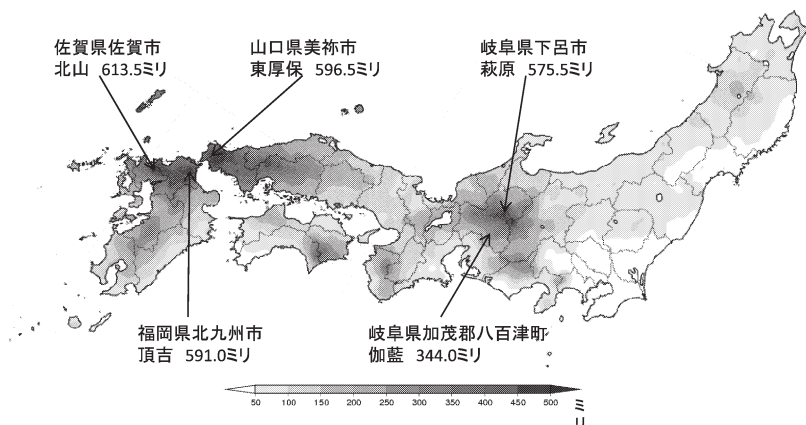
低気圧が東シナ海から三陸沖に進み、この低気圧からのびる前線が西日本から北日本を通過した。このため、西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。また、西日本の太平洋側の一部では大しけとなった。

大雨と高波により、船舶事故で宮崎県と島根県であわせて5名の死者が発生したほか住家の浸水が約80棟となった。また、西日本から北日本の広い範囲で、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(5) 6月11日～7月19日：全国（大雨）＜梅雨前線＞

6月11日から7月19日にかけて日本付近に停滞した梅雨前線の影響により、各地で大雨となった。第1図に7月10日から16日にかけての総雨量分布図を示す。

この大雨により、全国で死者16名、行方不明者5名



第1図 総雨量分布図（期間：7月10日～16日）。

となったほか、住家の浸水が約7,500棟に上り、また、約600件の土砂災害が発生した。また、全国で農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は、総務省消防庁調べ（2010年9月9日現在）、国土交通省調べ（2010年7月28日現在）などによる）

(6) 7月29日～30日：北日本（大雨）＜低気圧＞

低気圧が日本海中部から北海道に進んだ。このため、東北北部と北海道で大雨となった。この大雨により、住家の浸水が約400棟となったほか、林業被害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(7) 8月9日～14日：全国（大雨，暴風）＜前線，台風第4号＞

9日から14日にかけて、北日本から東日本に前線が停滞した。また、8月8日21時に先島諸島付近で発生した台風第4号は、発達しながら北に進み、10日には朝鮮半島の南海上で進路を北東に変え、11日から12日にかけて日本海を北東に進み、12日17時頃に秋田市付近に上陸した後三陸沖に進み、13日03時に温帯低気圧に変わった。前線および台風第4号の影響により、北日本から西日本の広い範囲で大雨となったほか、南西諸島で暴風となった。

この大雨と暴風により、全国で住家の浸水が約400棟となったほか、農業被害、交通障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(8) 8月30日～31日：沖縄県（暴風，大雨，高波）＜台風第7号＞

8月30日03時に日本の南海上で発生した台風第7号は発達しながら北西へ進み、31日には沖縄本島を通過して、9月1日から2日にかけて東シナ海を北上し、2日には進路を北東に変え、3日03時に日本海中部で熱帯低気圧に変わった。このため、沖縄県の一部で大雨となり、沖縄・奄美の一部で暴風となったほか、

か、沖縄本島付近で大しけとなった。

この台風による暴風等の影響で、沖縄県で住家の半壊1棟、一部損壊27棟の被害が発生したほか、交通障害や電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(9) 8月31日～9月1日：北日本（大雨）＜前線，低気圧＞

低気圧が沿海州からサハリンの東海上に進み、この低気圧からのびる前線が北日本から西日本を通過した。前線の影響で東北地方を中心に大雨となった。

この大雨により、秋田県と青森県を中心に住家の浸水が約100棟に上ったほか、道路損壊などで集落が孤立するなどの被害が発生した。また、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(10) 9月4日～9日：沖縄・奄美から北日本（大雨）＜台風第9号，熱帯低気圧，前線＞

9月4日09時に沖縄本島の南海上で発生した台風第9号は、発達しながら西に進み、4日には沖縄本島の南西海上で進路を北寄りに変え、5日は東シナ海を北上した。6日には九州の西海上で進路を北東に変え、7日には対馬海峡を通過して山陰沖を東北東に進んだ。8日には福井県敦賀市付近に上陸して東に進み、8日12時頃、岐阜県付近で熱帯低気圧に変わった。台風第9号から変わった熱帯低気圧はその後、関東南部を東に進んで、9日には関東の東海上へ達した。台風第9号および熱帯低気圧の影響により、9月4日から9日に

かけて南西諸島から北日本の広い範囲で大雨となった。

この台風および熱帯低気圧の影響により、静岡県、神奈川県、千葉県を中心に住家の浸水が約900棟、土砂災害が約130箇所を上り、また、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(11) 9月18日～19日：沖縄県（暴風、大雨）＜台風第11号＞

9月15日21時に沖縄の南で発生した台風第11号は発達しながら北東に進み、24時間後の9月16日21時には強い勢力で宮古島の南東に達した。台風は、その後も発達しながら北へ進んだ後、17日には進路を西に変えて、18日には非常に強い勢力となって宮古島の南南東に達した。その後、石垣島に接近し、更に発達しながら八重山諸島の南海上を西に進み、19日には与那国島の南東を西に進んだ。沖縄県の一部では18日から19日にかけて暴風や大雨、大しけとなった。

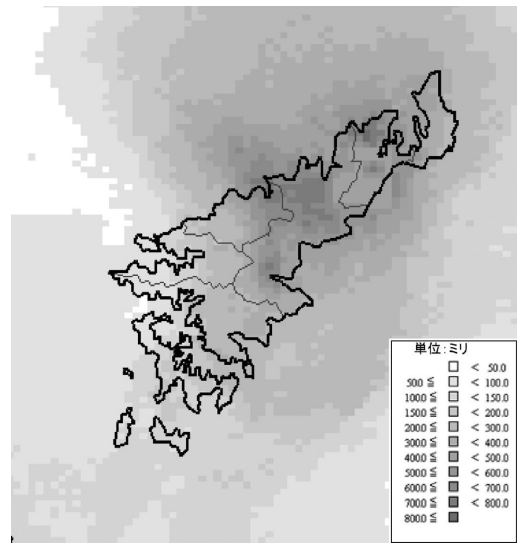
この台風の影響により、沖縄県では、電力障害や住家の一部損壊、交通障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(12) 9月23日：西日本から東日本（落雷）＜前線＞

本州付近に前線が停滞し、西日本から東日本にかけて大気の状態が不安定となった。17時59分頃、千葉県いすみ市では、小学校のグラウンドにおける祭礼の最中に落雷があり、重症2名を含む34名の負傷者が発生した。また、香川県や兵庫県の淡路島、愛知県などでは、落雷の影響による停電や住家火災が発生した。また、神奈川県足柄上郡山北町丹沢湖^{たんざわこ}では23日11時25分までの1時間に77.0 mm、大分県日田市椿ヶ鼻^{つばきがはな}では03時31分までの1時間に75.5 mmの非常に激しい雨が降った。（被害の状況は気象庁調べによる）

(13) 10月18日～25日：沖縄・奄美から東日本（大雨）＜前線、低気圧＞

10月18日から25日にかけて、南西諸島から本州の南海上に前線が停滞し、南シナ海にあった台風第13号の東側で非常に湿った空気が前線付近に流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、10月20日には奄美地方で所により日降水量が600 mmを超える記録的な大雨となったほか、南西諸島から西日本の一部で



第2図 奄美大島における2010年10月21日00時までの24時間降水量（解析雨量）。

大雨となった。第2図に10月21日00時までの24時間降水量（解析雨量）分布図を示す。

この大雨により、鹿児島県奄美市と龍郷町であわせて3名の死者が発生したほか、住家の浸水が886棟、住家の全壊・半壊・一部損壊が約500棟に上ったほか、道路損壊等による集落の孤立や通信の断絶、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は内閣府（防災担当）（2010年12月1日現在）による）

(14) 12月2日～4日：西日本から北日本（大雨、突風、暴風）＜低気圧、前線＞

2日から3日にかけて、低気圧が発達しながら東シナ海から日本海中部を通過して網走沖に進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。また、4日には強い冬型の気圧配置となった。このため西日本から東日本の広い範囲で大雨や暴風となり、また、東日本から北日本の日本海側の一部では大しけとなった。

この大雨および低気圧の影響で、東京都で排水作業中の事故により1名が死亡したほか、暴風と突風により十数名が負傷した。また、住家の一部損壊や船舶の転覆、農業被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

（気象庁予報部予報課）

2010年の台風

統計開始以来最少の発生数，日本への上陸は2個

1. 概要

2010年の台風の発生数は14個（平年は26.7個）で、1998年の16個を下回り1951年の統計開始以来の最少を記録した。接近数は7個と平年（10.8個）を下回った。

台風の発生数が少ないこともあり，日本への接近数は7個（平年値10.8個），上陸数は，台風第4号と第9号の2個（平年値2.6個）といずれも平年値を下回った。地域別にみると伊豆諸島・小笠原諸島への接近が2個（平年値5.0個）と少なく，上陸した台風はいずれも日本海側からの上陸となった。

第1表に台風の発生数，上陸数，接近数を，第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風（本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする）のうち，主な台風について以下に概要を示す。なお，風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は，气象台や測

候所などのときはその官署名を，アメダス地点の場合は都道府県名，市町村名及び地点名（地点名が市町村名と同じ場合は省略）とした。また，時刻については，全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧，第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第4号 (1004 DIANMU)

2010年8月7日09時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み，8日21時に宮古島の南海上で台風第4号となった。台風は，宮古島に接近した後，9日12時に東シナ海で勢力が最大となった。台風は，東北東に向きを変え，朝鮮半島の南岸を通り，12日17時頃に秋田県秋田市付近に上陸した。台風は，13日03時に北海道の南海上で温帯低気圧に変わり，13日15時に消滅した。

(2) 台風第6号 (1006 LIONROCK)

2010年8月28日03時にルソン島の西で発生した熱帯低気圧は北西へ進み，29日03時に同海域で台風第6号

第1表 平成22年(2010年)の台風発生数，日本への上陸数*1，日本への接近数*2と平年値及び平成21年(2009年)との比較。

項目	月	年												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
平成21年 (2009年)	発生数					2	2	2	5	7	3	1		22
	上陸数										1			1
	接近数					1			3	3	2			8
平成22年 (2010年)	発生数			1				2	5	4	2			14
	上陸数								1	1				2
	接近数								3	4	1			7

(注) ・平年値は，昭和46年(1971年)～平成12年(2000年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にもたがることがあり，各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*1 台風の中心が北海道，本州，四国，九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*2 台風の中心が，日本から概ね300 km以内に入った場合を「接近」という。

第2表 平成22年(2010年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値			熱帯低気圧又は温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置,又は域外で最初に確認された日時		
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧 hPa	風速 m/s	月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経
1	OMAIS	3 22 21	8.4	141.7	3 24 21	13.6	133.4	3 25 21	998	3 26 03	NE: 90 SW: 70	TD	3 26 21	17.7	132.1	
2	CONSON	7 11 21	13.9	132.6	7 12 09	14.3	130.3	7 17 03	970	7 16 15	E: 180 W: 150	TD	7 18 09	21.0	105.0	
3	CHANTHU	7 17 15	15.8	123.1	7 19 21	15.9	116.6	7 22 15	970	7 22 15	SE: 160 NW: 100	TD	7 23 21	23.5	107.0	
4	DIANMU	8 7 09	20.7	124.2	8 8 21	23.6	124.9	8 11 03	985	8 11 03	SE: 280 NW: 100	L	8 13 09	43.4	151.2	
5	MINDULLE	8 22 09	16.4	115.1	8 23 09	15.9	111.5	8 24 15	985	8 24 15	SE: 150 NW: 100	TD	8 25 09	19.4	104.1	
6	LIONROCK	8 28 03	16.5	118.0	8 29 03	19.2	116.5	9 1 03	985	9 1 03	SE: 140 NW: 60	TD	9 4 15	22.5	111.2	
7	KOMPASU	8 28 21	18.4	139.0	8 30 03	22.2	133.2	9 1 03	960	9 1 03	E: 140 W: 90	TD	9 6 21	域外		
8	NAMTHEUN	8 29 15	25.1	124.3	8 30 21	25.9	122.0	8 31 09	996	8 31 09	E: 60 W: 40	TD	8 31 21	25.2	119.8	
9	MALOU	9 1 21	15.6	141.4	9 4 09	24.7	128.3	9 6 15	992	9 7 06	E: 240 W: 120	TD	9 10 15	33.7	148.2	
10	MERANTI	9 7 09	22.5	123.8	9 9 03	20.8	119.6	9 10 03	985	9 10 03	SE: 90 NW: 70	TD	9 14 15	37.8	150.0	
11	FANAPI	9 15 03	19.6	129.1	9 15 21	20.9	127.8	9 19 03	930	9 19 03	NE: 200 SW: 150	TD	9 21 21	24.3	110.1	
12	MALAKAS	9 20 15	19.0	146.5	9 22 09	19.4	142.9	9 25 09	945	9 25 03	SE: 450 NW: 150	L	9 28 09	域外		
13	MEGI	10 13 09	11.9	141.4	10 13 21	12.0	140.9	10 18 09	885	10 18 09	NE: 280 SW: 200	TD	10 24 15	26.1	118.3	
14	CHABA	10 24 03	15.0	133.6	10 25 03	16.8	131.2	10 28 18	930	10 28 21	SE: 200 NW: 180	L	11 1 09	39.9	150.9	

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5 m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速が概ね15 m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

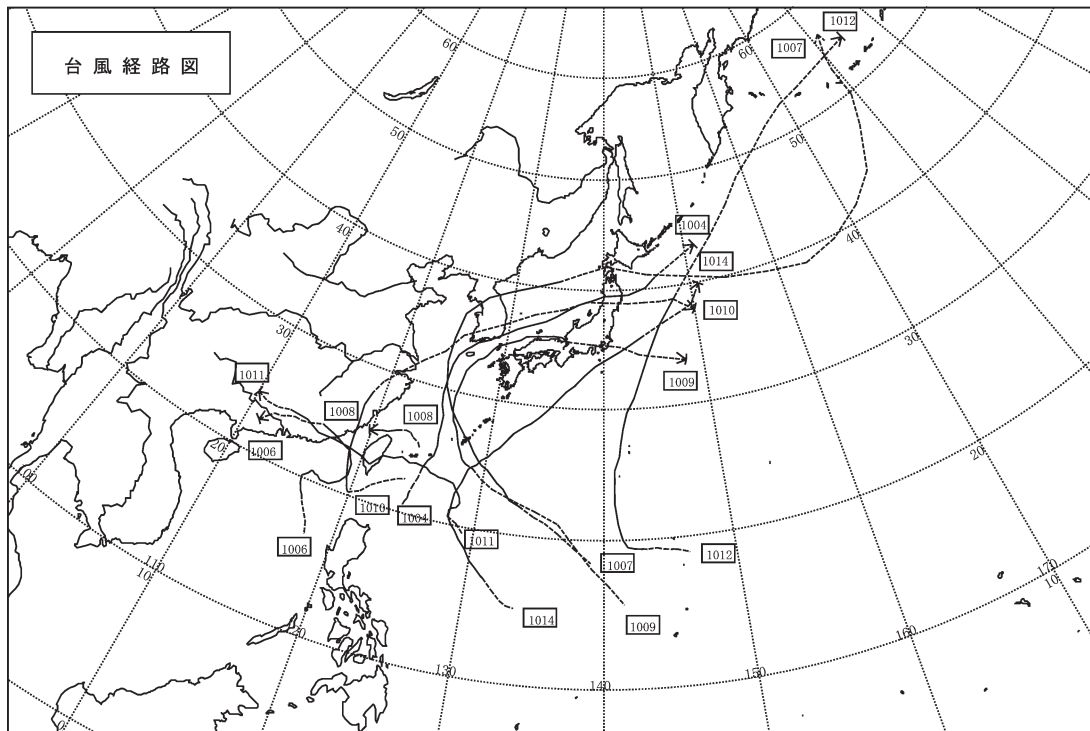
域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

第3表 平成22年（2010年）に日本に影響した台風の概要表（熱帯低気圧，温帯低気圧の期間は除く）。

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500 km 以内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300 km 以内に入った場合)			上陸，通過
	月日		地域	月日		地域	
	始	終		始	終		
4	8/8	8/13	沖縄・奄美，西日本，東海地方，関東甲信，伊豆諸島，北陸，北日本	8/8	8/13	沖縄，西日本，東海地方，関東甲信，北陸，北日本	8月12日17時頃，秋田県秋田市付近に上陸した。
6	9/1	9/2	沖縄				上陸または通過せず。
7	8/30	9/3	沖縄・奄美，九州，中国地方，北陸，北日本	8/30	9/1	沖縄・奄美	8月31日17時過ぎ，沖縄本島北部を通過した。
8	8/30	8/31	沖縄	8/30	8/31	沖縄	上陸または通過せず。
9	9/4	9/8	沖縄・奄美，西日本，東海地方，関東甲信，伊豆諸島，北陸，東北地方	9/4	9/8	沖縄・奄美，西日本，東海地方，関東甲信，北陸	9月7日11時半頃，長崎県対馬を通過した。 9月8日11時頃，福井県敦賀市付近に上陸した。
10	9/9	9/10	沖縄				上陸または通過せず。
11	9/15	9/20	沖縄・奄美	9/17	9/19	沖縄	上陸または通過せず。
12	9/24	9/25	東海地方，関東甲信，伊豆諸島，小笠原諸島，東北地方	9/24	9/25	小笠原諸島	上陸または通過せず。
14	10/27	10/31	沖縄・奄美，西日本，東海地方，関東甲信，伊豆諸島，北陸，東北地方	10/28	10/31	沖縄・奄美，近畿，東海地方，関東甲信，伊豆諸島，東北地方	上陸または通過せず。

* 台風の中心が日本から概ね300 km 以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

* 台風の中心が日本から概ね500 km 以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。



第1図 2010年に日本に影響を及ぼした台風の経路図。

となった。台風は、徐々に向きを東に変えた後、プラタス島付近を通過し、徐々に北西へ向きを変えて中国沿岸に達した。台風は、9月2日15時に熱帯低気圧に変わり、4日21時に消滅した。

(3) 台風第7号 (1007 KOMPASU)

2010年8月28日21時に沖ノ鳥島の南東で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、30日03時に同島の北西で台風第7号となった。台風は、北西の向きを維持して31日09時に南大東島の南海上で勢力が最大となった。台風は、勢力を保ったまま31日17時頃沖縄本島北部を通過し、黄海で北東に向きを変えて朝鮮半島を通過した。台風は、9月3日03時に日本海で熱帯低気圧に変わり、渡島半島を通過した後、3日21時に北海道の南東海上で温帯低気圧に変わり、日本のはるか東海上で北北東に向きを変え、6日21時にベーリング海で経度180度線を越えた。

(4) 台風第8号 (1008 NAMTHEUN)

2010年8月29日15時に石垣島の北海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進んだ後、西南西へ向きを変え、30日21時に台湾の北海上で台風第8号となった。台風は、西南西の向きを維持し、31日15時に台湾海峡で熱帯低気圧に変わった後、9月1日03時に消滅した。

(5) 台風第9号 (1009 MALOU)

2010年9月1日21時にサイパンの西海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、4日09時に沖縄本島の南海上で台風第9号となった。台風は、転向しながら6日03時に東シナ海で勢力が最大となり、東に向きを変えながら7日11時半頃に長崎県対馬を通過し、8日11時頃福井県敦賀市付近に上陸した後、8日12時に熱帯低気圧に変わり、東日本を東南東に進んだ後、10日21時に日本の東海上で消滅した。

(6) 台風第10号 (1010 MERANTI)

2010年9月7日09時に西表島の南海上で発生した熱帯低気圧は南西へ進み、9日03時に南シナ海で台風第

10号となった。台風は、急激に向きを北に変え、10日03時に同海域で勢力が最大となった後、中国南部に上陸し、10日21時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、加速しながら北東へ進み、11日に東シナ海を通過し、朝鮮半島を通過した後12日09時に温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、東へ進んで日本海と東北地方を通り、14日21時に日本の東海上で消滅した。

(7) 台風第11号 (1011 FANAPI)

2010年9月15日03時にルソン島の東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、15日21時に沖縄の南海上で台風第11号となった。台風は、北に向きを変えた後、徐々に西へ向きを変え、19日00時に西表島の南海上で勢力が最大となった。台風は、西へ進路を保ち、台湾を通過した後、中国南部に上陸し、21日03時に香港の北で熱帯低気圧に変わり、22日03時に消滅した。

(8) 台風第12号 (1012 MALAKAS)

2010年9月20日15時にマリアナ諸島付近で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと西へ移動し、22日09時にマリアナ諸島の西海上で台風第12号となった。台風は、北に向きを変え、25日03時に八丈島の南東海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に北東へ向きを変えながら進み、25日21時に日本の東海上で温帯低気圧となった。温帯低気圧は、東へ向きを変え、28日09時にベーリング海で経度180度線を越えた。

(9) 台風第14号 (1014 CHABA)

2010年10月24日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、25日03時に同海域で台風第14号となった。台風は、徐々に北東へ向きを変え、28日18時に沖縄の南東海上で勢力が最大となった。台風は、北東の向きを維持しながら加速して日本の南海上を進み、31日03時に関東の東海上で温帯低気圧に変わり、11月1日15時に日本のはるか東海上で消滅した。

(気象庁予報部予報課)